展示品目録

資　料　名	点数	遺跡名	所蔵・保管
竹内街道・中高野街道 分岐道標（岡４丁目）　※パネル展示	1		
竹内街道・中高野街道 茶屋筋道標（岡５丁目）　※パネル展示	1		
河内国丹北郡松原村岡麁絵図	1		吉村家住宅
古市以下七郡役所部内略図	1		〃
大座間池水利絵図	1		松原市教育委員会
大師堂 十三佛屏風	1		岡町会・岡観音講
神田覚栄師 肖像写真	1		〃
『河内名所図会』巻之四	1		西田敏弘氏
「廣場山」銘 軒丸瓦	2		当館
柴籬神社 拝殿前 石燈籠 拓本	1		〃
昭和初期に撮影された柴籬神社参道と松並木	1		松原市
手洗鉢と河内大塚山古墳　※パネル展示	1		
炉壁片	5	岡遺跡	大阪府教育委員会
土器（瓦器椀、土師皿、瓦質片口鉢、瓦質羽釜、三足付羽釜）	16	〃	〃
溶解炉下段	1	丹南遺跡	松原市教育委員会
炉壁片	1	〃	〃
土器（羽釜、瓦器椀、瓦器皿）	4	〃	〃
鋳型	8	〃	〃
鋳型焼成用支脚	1	〃	〃
半球状土製品	1	〃	〃
長方形土製品	1	〃	〃
鋳型片	5	立部遺跡	〃
炉壁片	2	〃	〃
羽口	1	〃	〃
土器（瓦器椀、土師器皿、瓦質片口鉢）	8	〃	〃

【おもな引用・参考文献】

- 大阪市立大学（編）2019『シンポジウム　河内鋳物師の実像に迫る』（資料集）
- 大阪府教育委員会1993『岡2丁目所在遺跡発掘調査概要報告書』
- 大阪府文化財調査研究センター1998『発掘速報展 大阪’98』（大阪府立近つ飛鳥博物館平成9年度冬季企画展図録）
- 樫木規秀2023「河内鋳物師の里・大阪府松原市の鋳造関連遺跡―松原市教育委員会の調査を中心に―」『鋳造遺跡研究資料2023』鋳造遺跡研究会
- 堺市立みはら歴史博物館2014『河内鋳物師の誇り－鍋・釜づくりの名人たち―』（平成26年度特別展図録）
- 松原市民ふるさとぴあプラザ郷土資料館2013「街道展－松原の往来案内－」（平成25年度特別展パンフレット）
- 松原市民ふるさとぴあプラザ郷土資料館2017「竹内街道と松原－街道を行き交う人々－」（平成29年度特別展パンフレット）

【協力者（敬称略、五十音順）】

本展の開催およびリーフレット作成にあたり、次の方々・諸機関には多大なるご協力・ご援助を賜りました。 記して感謝の意を表します。

池本 保　小田木富慈美　小浜 成　佐伯博光　竹原伸次　西田敏弘
西田久子　菱田雅之　守田 悠　安松昌志　吉村 香
大阪府教育委員会　公益財団法人大阪府文化財センター
岡町会　岡観音講　柴籬神社　泉福寺

松原の歴史遺産を伝える
松原市郷土資料館

松原市民ふるさとぴあプラザ
一般財団法人 松原市文化情報振興事業団
大阪府松原市上田7-11-19 TEL：072-336-6800

ホームページはこちら

■会場案内図　河内松原駅南口（2F）から南へ約650m

JAPAN HERITAGE 日本遺産

松原市マスコットキャラクター

会　期
2024/10.12（土）
▼
11.24（日）

9:00～17:00《入館無料》

会　場：**松原市郷土資料館 1階 特別展示室**
（松原市民ふるさとぴあプラザ）
※月曜休館（10月14日と11月4日は開館します）

主　催：松　原　市
一般財団法人 松原市文化情報振興事業団

共　催：松原市教育委員会

ごあいさつ

平成29年（2017）に竹内街道・横大路が日本遺産に認定されて7年が経過しました。竹内街道の一部は松原市南部を東西約1.5kmにわたって通過しており、街道沿いにはその歴史について記した解説板やモニュメントが建てられています。ただ、生活道路として日々の暮らしの風景に溶け込んでいるため、あまり意識されていないかもしれません。

今回の企画展では、松原市域の日本遺産である竹内街道、柴籬神社、河内鋳物師関連遺跡を紹介します。竹内街道が造られて以降1400年の間、多くの人や文物の往来にともなって生み出された産業や信仰に思いを馳せ、地域の歴史や文化財にあらためて目を向けていただければ幸いです。

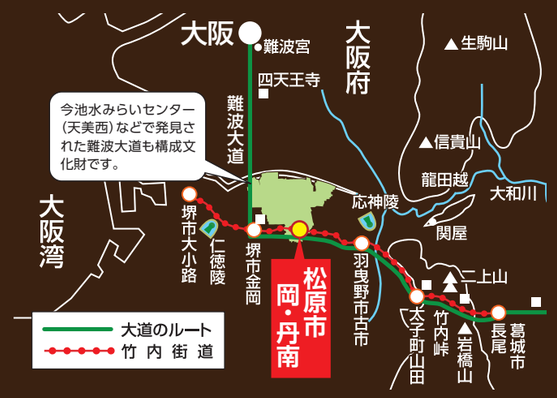
最後になりましたが、本展を開催するにあたり、貴重な資料をご提供いただきました各所蔵者・各機関ならびにご協力いただきました関係各位に対して厚く御礼申し上げます。

令和6年10月12日
松原市・（一財）松原市文化情報振興事業団

松原市 令和6年度企画展

松原の日本遺産

～竹内街道（たけのうちかいどう）の風景と河内鋳物師（かわちいもじ）の里～



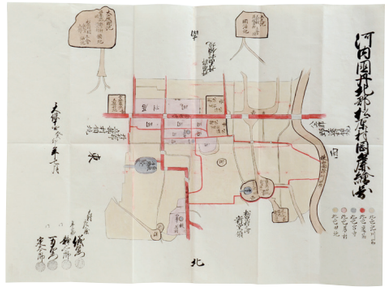
松原市郷土資料館

松原市 令和6年度企画展 松原の日本遺産 ～竹内街道の風景と河内鋳物師の里～

◆最古の国道　竹内街道（たけのうちかいどう）

『日本書紀』推古21年(613)冬11月条に「難波より京に至る大道を置く」という記述があり、難波の港と京すなわち飛鳥とを結ぶ道路が設置されました。この「大道」の一部が現在の竹内街道であると考えられています。この竹内街道は、飛鳥時代は中国や朝鮮半島の使節や文物が往来する外交の道としておもに使われましたが、奈良時代以降は、聖徳太子ゆかりの地を訪れる太子信仰の人々や、近世には高野山や伊勢神宮へ参詣する人々も行き交うなど、信仰の道として利用されました。また中世には貿易港として栄えた堺と大和国を結ぶ経済の道として機能するなど、時代ごとに重要な役割を果たしてきたと言えるでしょう。

竹内街道という名称については、江戸時代の絵図などによると「大和海道」「大和路」との記載が多く、これらが当時の一般的な呼称だったと思われます。一方、明治時代の史料や絵図には「竹之(ノ・の)内街道」と記されていることから、竹内街道の呼称がひろく使われるようになったのは明治時代以降のようです。



河内国丹北郡松原村岡麁絵図（かわちのくに たんぽくぐん まつばらむらおか そえず） 天保14年(1843)
(吉村家住宅蔵)
江戸時代後期の松原村岡の様子を描いたもので、南を上にしています。道筋は朱色に彩色され、村を東西に横断する「大和海道」が竹内街道です。また、村の東寄りを途中で屈曲しつつ南北に縦断している「高野海道」が中高野街道にあたります。

特別展示　岡観音講の「十三佛屏風」
(岡町会・岡観音講蔵)
明治時代後半、岡の観音講によって建立された大師堂には、毎年4月21日の大祭にあわせて本堂で披露される十三佛屏風が保管されています。屏風は大正10年5月に新調、大師堂の神田覚栄が導師となり、岡観音講により奉納されました。講の人びとによって現代まで受け継がれてきた信仰を示す貴重な資料です。

竹内街道・中高野街道
茶屋筋道標
岡5丁目
松原南コミュニティセンター前

竹内街道・中高野街道
分岐道標
岡4丁目

岡の道標

竹内街道は市域南部の岡・立部を東西に約1.5㎞通過しており、市域を南北にはしる中高野街道とも交差しています。その場所には寛政9年(1797)5月に伊勢講によって建立された二つの道標があります。これらの道標は、竹内街道沿いに残る年号の刻まれた道標の中で3番目に古いものです。また、この竹内街道と中高野街道の交差点付近は茶屋筋と呼ばれ、かつては伊勢参りなどのための宿屋や料理旅館が立ち並び、多くの人びとの往来がありました。

保管袋

保管函

◆柴籬神社（しばがきじんじゃ）

竹内街道と長尾街道の間に位置する柴籬神社は、仁賢天皇の勅命により創建されたと伝えられ、反正天皇・菅原道真・依羅宿禰を祀っています。享和元年(1801)に刊行された『河内名所図会』には「柴籬宮旧跡」の挿絵が描かれており、当時の柴籬神社の様子を窺い知ることができます。江戸時代には広場山天神宮と称し、境内には広場山観念寺という神宮寺も存在していました。ただ、観念寺は明治初期の神仏分離によって廃寺となりました。柴籬神社南門や、絵馬堂の屋根に葺かれた「廣場山」銘の瓦の存在が、観念寺の名残をとどめています。

柴籬神社は反正天皇が即位したとされる丹比柴籬宮の伝承地に建つ神社としてもよく知られています。宮の存在を示すような遺構・遺物などは見つかっていませんが、神社付近には「反正山」「極殿山」など、反正天皇との関わりを示すような地名がいくつか存在することからも、丹比柴籬宮の有力候補地であると言えるでしょう。

「廣場山」銘 軒丸瓦 江戸時代 (当館蔵)
かつて柴籬神社の神宮寺であった広場山観念寺の存在を今に伝えています。「廣場山」の書体や文字の配置が異なりますが、現在も柴籬神社境内にある絵馬堂の屋根には「廣場山」銘の軒丸瓦が葺かれています。

柴籬神社 絵馬堂

『河内名所図会』「柴籬宮旧跡」(部分)
享和元年に刊行された『河内名所図会』に「柴籬宮旧跡」の挿絵が描かれています。「天満宮」と書かれた場所が本殿で、「観音」と書かれた場所には、明治時代初めに廃寺となった神宮寺である観念寺が建っていたことがわかります。

◆河内鋳物師の里（かわちいもじ）

松原市は律令制下では河内国丹比郡に属し、11世紀後半には丹北郡・丹南郡・八上郡(現在の堺市・松原市の一部)に分割されます。三郡には、平安時代末から鎌倉・室町時代にかけて活躍した「河内鋳物師」と呼ばれる優れた鋳造技術を持った集団が暮らしていました。

この鋳物師には、鍋や釜などの生活用品を作って都で売り歩いたとされる「土鋳物師」と、街道の通行証を受けて全国を遍歴し、寺社の梵鐘などの大型品を注文主のもとに出向いて作った「廻船鋳物師」がいました。

松原市域では住宅の建て替えや店舗建設などに伴う発掘調査によって、これまで3遺跡で鋳造遺構や鋳造関連遺物が確認されています。これらの遺跡は羽曳野丘陵からのびる台地上に立地し、周辺は鋳型の原材料となる良質な粘土が採取できる場所でもあります。街道にも近く、鋳造に必要な原材料や資材、製品の運搬等にも便利な場所である点は、鋳物師たちが工房を構えるうえで好都合だったのでしょう。

岡遺跡 鋳造遺構
(大阪府教育委員会提供)

岡遺跡

平成4年(1992)岡2丁目の府営住宅建て替えに伴う発掘調査で、平安時代末、鎌倉時代中期、室町時代前期の3時期にわたる遺構・遺物が確認されました。なかでも、鎌倉時代を中心に室町時代後半におよぶ鋳造遺構が顕著で、溶解炉、鋳型を据えた土坑、鉄滓が詰まった土坑などが見つかっています。鉄滓は3.6トンにもおよび、その量の多さから鉄鋳物を中心に製作していたと考えられます。

丹南遺跡

遺跡の北部には竹内街道が東西にはしり、遺跡内を南北に中高野街道が通っています。これまで数度の発掘調査がおこなわれており、平成11年(1999)の店舗建設に伴う調査では、13～14世紀代の土坑や井戸から、残存状態が良好な溶解炉下段や炉壁・羽口などの鋳造関連遺物がまとまって見つかりました。また平成18年(2006)の宅地造成に伴う調査では、大量の鋳造関連遺物が廃棄された土坑が見つかりました。炉壁、鍋・羽釜・仏具の鋳型、鋳型焼成用支脚など多岐にわたります。炉壁には緑青が付着したものもあり、銅鋳物も生産していたことが窺われます。鋳造遺構は確認されていませんが、多くの鋳造関連遺物が見つかっていることから、近辺に工房の存在を想定できます。

丹南遺跡出土
溶解炉下段
(松原市教育委員会提供)

丹南遺跡
鋳造関連遺物出土のようす
(松原市教育委員会提供)

立部遺跡

平安時代～室町時代を中心に営まれた遺跡で、平成5年(1993)の竹内街道に隣接する市営住宅建て替えにともなう発掘調査では、平安時代後期～鎌倉時代前期の掘立柱建物・井戸・土坑群などが見つかりました。土坑は、鋳型等の原材料となる粘土を採掘した痕跡と考えられます。この土坑には、炉壁片・鋳型片・鉄滓が廃棄されていました。土坑群の規模と廃棄された鉄滓などから、近くに工房が存在する可能性が高いと言えます。

立部遺跡出土
ふいごの羽口

立部遺跡出土
鋳型片と炉壁片

(出土品はすべて松原市教育委員会蔵　立部遺跡出土品写真は公益財団法人大阪府文化財センター提供)